第22回北海道こども木工作品コンクールを終えて

企業支援部　技術支援グループ　高山光子

■はじめに

林産試験場と（一社）北海道林産技術普及協会および北海道木材青壮年団体連合会との共催で開催している「北海道こども木工作品コンクール」は，毎年，北海道内の全ての小中学校に教育委員会をとおして応募を呼びかけ，木工工作個人の部（造形的作品部門），同（実用的作品部門），木工工作団体の部，レリーフ作品の部の4部門について作品を募集しています。

今年のコンクールには，旭川近郊をはじめ宗谷や根室，渡島，檜山など道内各地の小中学校27校から合計463作品の応募がありました。昨年の19校299作品から学校数，作品数とも大幅に増え，初めて応募していただいた学校が9校ありました。

9月10日に美術館や学校教育関係者などによる審査委員会を開催し，部門ごとに最優秀賞，優秀賞，特別賞が選ばれ，最優秀賞には知事賞が授与されました。これらの受賞作品を中心に，今年のコンクールについてご紹介します。

■木工工作個人の部（造形的作品部門）

木工工作個人の部（造形的作品部門）には小学校11校，中学校2校から合計83作品の応募がありました。素材の形や持ち味を生かした作品や割り箸で根気よく作り上げた作品などバラエティに富んだ作品が集まりました。

最優秀賞には，旭川市立末広小学校2年　松倉歩優さんの「木のジェットコースター」が選ばれました。細い枝を曲げて円形につなげたコースを勢いよく走るジェットコースターを表現した作品で，「細い枝の弾力性を生かした今までにない作品」，「独創性が高い」，「大変豪快で思いきりが良い」，「通常の作品の枠を飛び越えた勢いがある」など審査員全員が高く評価した作品です。

優秀賞には，木の枝などの自然素材を使いながら，タイプの違う2作品が選ばれました。一つ目は東川町立東川小学校2年　三戸颯将さんの「ほえる龍」で，「豪快で迫力がある」，「力強い造形」，「目の表情がよい」などの点が評価されました。もう一つは「まとまっていて，隅々まで楽しい雰囲気がある」，「素材の使い方が工夫されている」，「非常にまとまった，丁寧に作られた作品」と評価された旭川市立朝日小学校5年　河端心美さんの「夏の森」が選ばれました。

「木のジェットコースター」
旭川市立末広小学校2年　松倉歩優

「ほえる龍」
東川町立東川小学校2年　三戸颯将

「夏の森」
旭川市立朝日小学校5年　河端　心美

特別賞には「小さいけれど作品として完成度が高く世界観を持っている」と評価された「ふくろうのもり」（中標津町立中標津小学校2年　辻優華さん），積み木のような楽しい造形や色使いなどが評価された「ティラノサウルス」（中標津町立中標津東小学校1 年　米持琉聖さん），「ビー玉を転がしてみたら木が愉快に動いていい感じだった。見事に下まで転がった」との感想が聞かれた「ピタゴラスイッチ２」（中標津町立中標津東小学校5年　本間麗美さん），箱の枠組みや昆虫の丁寧な作りと色の塗り方が評価された「昆虫の標本」（中標津町立中標津東小学校5年　森田脩雅さん），屋根の重なりなど構造をとらえてうまく表現した点が評価された「わりばしの家」（中標津町立中標津東小学校6年　西山百翔さん），独創性と仕上げの丁寧さ，作品としての完成度が評価された「生命最強クマムシ」（旭川市立神居東小学校5年　多田皓雅さん），「流木など海にあるものを集め涼やかな形にまとめた作品」と評価された「海女の祈り」（余市養護学校しりべし学園分校中等部3年　千葉瑠奈さん），「流木の形がおもしろくオブジェとして雰囲気がよい」などの評価を受けた「TAKAYU」（余市養護学校しりべし学園分校中等部3年　高橋優樹さん），以上8作品が選ばれました。

「ふくろうのもり」
中標津町立中標津小学校
2年　辻　優華

「ティラノサウルス」
中標津町立
中標津東小学校
1年　米持　琉聖

「ピタゴラスイッチ2」
中標津町立
中標津東小学校
5年　本間　麗美

「昆虫の標本」
中標津町立
中標津東小学校
5年　森田　脩雅

「わりばしの家」
中標津町立中標津東小学校
6年　西山　百翔

「生命最強クマムシ」
旭川市立神居東小学校
5年　多田　皓雅

「海女の祈り」
余市養護学校
しりべし学園分校中等部
3年　千葉　瑠奈

「TAKAYU」
余市養護学校
しりべし学園分校中等部
3年　高橋　優樹

■木工工作個人の部（実用的作品部門）

木工工作個人の部（実用的作品部門）には小学校6校，中学校2校から合計71点の応募がありました。昨年の応募数23点から大きく増加したことから，作品内容の幅が広がり，そのまま実用品として使えるような強度や精度の高い作品も多く集まりました。

最優秀賞には中標津町立中標津小学校5年　富永大貴さんの「古風なイス」が選ばれました。「ぐらつきやゆがみが無くそのまま実用に使える」，「色合い，風合いが良い」，「シンプルであるがしっかり作られ実用に耐える」，「色の雰囲気も良い味わいがある」など審査委員から高い評価がありました。

「古風なイス」
中標津町立中標津小学校5年　富永　大貴

優秀賞には「工作技術が優秀でできあがり精度が高い」，「きっちりがんばった作品」，「きちんと工作をしている作品」と評価された，中標津町立中標津小学校5年　佐藤春陽さんの「引き出し」と「ポストとしての機能をしっかり備えている」，「このまま外に置いて何年も使えそう」「ありがとうの文字にひかれた」などの評価を受けた，旭川市立神居東小学校4年　今野叶さんの「ゆうびんポスト」が選ばれました。

「引き出し」
中標津町立中標津小学校5年　佐藤　春陽

「ゆうびんポスト」
旭川市立神居東小学校4年　今野　叶

特別賞には「三角の部分が精度よく切れている」「デザイン的に形の美しさがある」との評価を受けた「花だい」（中標津町立中標津小学校2年　星光里さん）と，「仕上げが丁寧で手ざわりが非常になめらか」，「欠けた板など本来捨てる部分の材料をうまく用いている」，「造形デザインと実用性を兼ね備えている作品」との評価を受けた「スライド本だな」（中標津町立中標津東小学校6年　宮下亮太さん）の2作品が選ばれました。

「花だい」
中標津町立中標津小学校
2年　星　光里

「スライド本だな」
中標津町立
中標津東小学校
6年　宮下　亮太

■木工工作団体の部

団体の部は何人かで協力して作り上げた見応えのある大型の作品がよせられる毎年楽しみな部門です。今年は小学校1校，中学校2校から合計4作品の応募がありました。ここ数年は2校2作品のみという応募状況が続いたので久しぶりに賑やかになりました。

最優秀賞には滝上町立濁川小学校1，2，3，5，6年生10名による「濁小ロケット　宇宙着陸！」が選ばれました。毎年，枝やドングリ，松ぼっくりなどいろいろな自然素材を使って動物や子どもたちが登場する楽しい作品を応募していただいている同校ですが，今年は「宇宙ロケット」を題材とした作品でした。審査委員からも，「素材をうまく使って，みんなで楽しんで作っていることが伝わる作品」，「いろいろな材料の使い方をしていて見ているだけで楽しませてくれる」との評価に加え，「森のものを使いながら「森の○○」ではなく宇宙やロケットを自然素材を生かして作っているところがおもしろい」，「宇宙服の頭のところの木の皮の使い方など自然素材でうまく表現しているところがよい」との高い評価をいただきました。

「濁小ロケット　宇宙着陸！」
滝上町立濁川小学校1，2，3，5，6年
高山　創多，山本　颯馬，関町　凪，山下　紗希，
五十嵐　晴光，保科 龍汰，山本 羽珠，奥田 達優，
中村 雪乃，平本 未緒

「集うⅥ　～樹上のスズメバチ～」
当麻町立当麻中学校　美術部1～3年
阿部 七海，右手 七彩，齋田 知夏，高橋 美羽，
岡田 玲央奈，中木 星菜，青柳 芹奈，安齋 花菜，
石田 美夢，片野 きずな，横野 史帆，柏倉 礼奈，
加納 うとわ，寺嶋 智花子，中島 乃亜，山下 風香，
西畑 佳織，尾田 羅奈，青柳 伶奈，浅見 北斗

優秀賞には当麻町立当麻中学校　美術部1～3年生20人による「集うⅥ～樹上のスズメバチ～」が選ばれました。同校も毎年鳥や魚など同じ題材で生徒一人一人が作品を作成し，それを全体で一つの作品にまとめて「集う」シリーズとして応募していただいています。6作目となる今年は，円柱を組み合わせた樹木や円板を組み合わせた蜂の巣にリアルなスズメバチが群がる「少し怖い感じがする」作品ですが，「おもしろい発想でうまい作り方をしている」点や，仕上がりの丁寧さ，作品の完成度の高さが高く評価されました。

特別賞には白糠町立白糠中学校　美術部2年生3名による「テーブル」が選ばれました。実用品としてガタガタしない，しっかりしている作りが評価されました。これまで造形的な作品の多かった団体の部ですが，参加校が増えると作品の幅も広がりさらに楽しみな部門です。

「テーブル」
白糠町立白糠中学校　美術部2年
田代　李羅，髙橋　杏朱，髙橋　すず

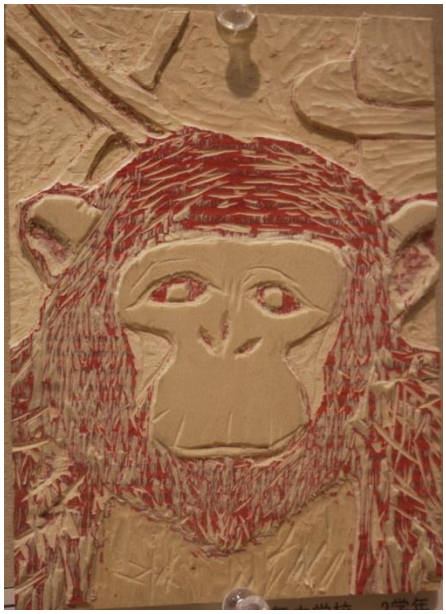
■レリーフ作品の部

この部門は林産試験場で開発した「アート彫刻板」を使って作品を制作してもらいます。この彫刻板は，赤色の顔料を加えた接着剤で数枚の単板を貼り合わせた合板で，彫り方によって赤い接着層が様々な模様となって現れます。

今年は小学校3校，中学校7校から合計305作品という昨年の1.5倍の作品応募がありました。

その中で最優秀賞に選ばれたのは，札幌市立簾舞中学校2年　東優里さんの「チンパンジー」でした。「板の凹凸と色をうまく使って表現している」，「表情があり，絵的によい」，「毛並みをうまく彫って表現していて雰囲気が良くとらえられている」，「いろいろな彫り方をして良く表現している」とアート彫刻板の生かし方，彫り方の技術，構図とも高い評価を受けました。

優秀賞には「素材の赤と白をうまく扱っている」，「屋根のトタンの方向などを意識してきちんと彫っている」，「丁寧に仕事をしている」などの評価を受けた森町立森小学校5年　小笠原千乃さんの「函館奉行所」と，「上から降り注ぐ光や花を板の積層をうまく使ってしっかり彫り込んでいる」，「素材の良さをうまく使いきっている」などの評価を受けた稚内市立潮見が丘中学校2年　木村稜さんの「にじ」が選ばれました。



「チンパンジー」
札幌市立簾舞中学校2年　東　優里

「函館奉行所」
森町立森小学校5年　小笠原　千乃

「にじ」
稚内市立潮見が丘中学校2年　木村　稜

特別賞には丁寧に彫られている点や構図，バランスが評価された「生きた化石・アンモナイト」（札幌市立簾舞中学校2年　櫻井ニクラス塁さん），後ろが抜けるほど大胆に彫って樹木の感じや森の雰囲気を出した構図のおもしろさが評価された「林」（稚内市立潮見が丘中学校2年　佐々木開さん），音を彫刻で表現するという発想のおもしろさが評価された「心臓の音」（稚内市立潮見が丘中学校2年　合田有那さん），構図や山の彫り方が評価された「山と海と花」（稚内市立潮見が丘中学校2年　細木優太さん），平面の重なりをうまく使い奥行きがあり立体的に見える切り絵のような表現のおもしろさが評価された「木の上のパンダ」（当麻町立当麻中学校3年尾田羅奈さん）の5点が選ばれました。

「生きた化石
・アンモナイト」
札幌市立簾舞中学校
2年　櫻井　ニクラス塁

「林」
稚内市立潮見が丘中学校
2年　佐々木　開

「心臓の音」
稚内市立潮見が丘中学校
2年　合田　有那

「山と海と花」
稚内市立潮見が丘中学校
2年　細木　優太

「木の上のパンダ」
当麻町立当麻中学校
3年　尾田　羅奈

■コンクールを終えて

このコンクールは「日常あまり手にすることのない木工道具を使用し，想像力を生かして一つの作品に仕上げるという体験を通して，子供たちの木材や樹木への興味を育み，木工技術の向上を図る」ことを目的としています。今回応募された先生から，「このコンクールに出させてもらうようになって子どもたちの工作のレベルが上がった」という話がありました。応募した児童がコンクール展に他の学校のこどもの作品を見に来て毎年参考にしているそうです。また別の学校では「子どもたちは普段から工作材料になりそうな枝や木の実を集めている」との話もありました。コンクールが「木材や樹木への興味を育み，木工技術の向上を図る」きっかけとなっているようでうれしく思いました。

今年のコンクールは応募学校数，作品数ともに増えたことで作品内容も充実し審査委員からも「今まで見たことのない造形や木の使い方が見られ興味深く拝見した」，「たくさんの力作が揃っていて楽しんで審査させていただいた」との声が聞かれました。木工工作個人の部の造形的作品部門には，小枝を曲げた造形や削って磨いて仕上げる造形，ボタンや毛

糸などを効果的に使用した作品などこれまでにない発想の作品が見られ，作品それぞれに制作した子どもたちの工夫や丁寧な作業の様子が感じられました。また，実用的作品部門にもイスや郵便ポスト，犬小屋など，子どもたちが自分の生活の中で使うことを考えて制作したと思われる様々な作品が寄せられました。実用上の機能や精度を考慮した作品も多く見られ，「実用的作品部門」としての見応えが出てきたと感じられます。

今後も多くの学校に参加していただき，より内容豊かなコンクールとなるよう，工夫をしながら開催していきたいと考えております。

なお，今年も9月13日～10月5日まで，当場の「木と暮らしの情報館」において，コンクールの全応募作品を紹介する「第22回北海道こども木工作品コンクール展」を開催し多くの方に作品をご覧いただきました。

第22回北海道こども木工作品コンクール展の様子